

農を憫む（李紳）

か
禾を 鋤いて 日 午に
當る

汗は 滴る 禾下の 土
あせ したた かか つち

誰か 知らん 盤中の 僉
たれ し ばんちゅう のそん

粒々 皆 辛苦 なるを
りゅうりゅう みな しんく

鋤禾日當午 汗滴禾下土
誰知盤中飧 粒粒皆辛苦

解説 農民の労苦、食物の大切さを訴えた教訓の詩である。

語釈 ※憫＝かわいそうに思う。※禾＝稻。※鋤＝農具の一種で、鋤によ

りも古くから土壤を耕す道具として使用されていた。※午＝正午。

※盤＝はち。※飧＝食事。※粒粒＝飯の一粒一粒。※辛苦＝辛い苦しみ。

通釈 稻を鋤で手入れをしていると、真昼どきの太陽が照りつける。吹き出る汗は稻の根もとに滴り落ちる。誰が知つていよう、このはちの中の飯の一粒一粒が農民の労苦の結晶から出来上がつていることを。